

行政評価シート（事務事業評価）		評価年度	3年度
事業名	市民バス運行事業費	担当課	総合政策課
事業内容(簡潔に)	生活路線としてバスを運行し、市内の公共交通の整備		

1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

第7次総合計画での目的体系	基本方向	安全・安心に暮らせる強いまちづくり
	政策	安全・安心なまちづくり
	施策	公共交通網の整備
関連する個別計画等		根拠条例等

2 計画(PLAN):事務事業の概要

事業の目的	公共交通整備の一環として、地域住民の生活に必要な交通手段を確保する。
事業の手段	<ul style="list-style-type: none"> 平成11年～12年にかけて廃止となった路線バスを基本経路として、バス運行業務を事業者へ委託して、「市民バス」として市内を運行する。 【路線名】 <ul style="list-style-type: none"> ①円野線（市立病院～葦崎駅～円野町）、②社会福祉村線（市立病院～葦崎駅～社会福祉村）、③穂坂線（市立病院～葦崎駅～穂坂町）、④竜岡線（市立病院～葦崎駅～竜岡町） ・廃止となった路線のうち北杜市にまたがる路線は、北杜市と共同で「委託代替バス」として運行する。 【路線名】 <ul style="list-style-type: none"> ①下教来石線（葦崎～穴山～円野町～北杜市）
事業の対象	路線の周辺地域住民

3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		30年度	元年度	2年度
A	事業費 (千円)	52,708	51,065	53,318
財源内訳	国・県支出金	6,340	6,611	6,614
	その他(使用料・借入金ほか)			
	一般財源	46,368	44,454	46,704
B	担当職員数(職員E) (人)	0.20	0.2	0.2
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	1,372	1,343	1,315
D	総事業費(A+C) (千円)	54,080	52,408	54,633
主な事業費用の説明	運行委託料、穂坂線時刻表修繕費			

注)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した30年度(6,862千円)、元年度(6,715千円)、2年度(6,575千円)を使用しています。

4 実施(DO):事業を数字で分析(アウトプット=事業量)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			30年度	元年度	2年度
活動指標	1 運行日数(日) []内は休日運行日数	市民バス 委託代替バス	364 [120] 365 [121]	365 [125] 366 [126]	364 [121] 365 [122]
	2 運行便数(便) []内は休日運行便数	【市民バス】 円野線 社会福祉村線 穂坂線 竜岡線 【委託代替バス】 下教来石線	10 [8] 12 [8] 12 [10] 10 [8]	10 [8] 12 [8] 12 [10] 10 [8]	10 [8] 12 [8] 12 [10] 10 [8]
	3				
妥当性	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない				
上記活動指標と妥当性の説明	1	市民バスは、1/1のみ連休となり、土日祝日と12/29～1/3が休日運行ダイヤで運行実施 委託代替バスは、土日祝日と12/29～1/3が休日運行ダイヤとなり毎日運行実施			
	2	地域住民及び交通弱者の交通手段として、市民バス等を1日複数回運行することは、駅や医療機関などの主要施設へのアクセスが可能になり、日常生活の利便性の向上が見込まれるため妥当である。			
	3				

5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名	指標の算出方法	実績値			
			30年度	元年度	2年度	
成果指標 もしくは まちづくり 指標	1	年間輸送人員(人) ※のべ利用者	【市民バス】 円野線 社会福祉村線 穂坂線 竜岡線 【市民バス合計】 60,651 【委託代替バス】 下教来石線 27,076	22,581 21,415 14,111 2,544 60,651	21,539 19,296 14,628 4,693 60,156	16,973 13,910 10,729 3,654 45,266
	2	1人当たりの運行費用 (円) []内は委託料(千円)	委託料÷年間輸送人員 市民バス 委託代替バス 【龍崎市負担分】	625 [37,910] 504 [13,644]	595 [35,826] 627 [15,037]	808 [36,573] 963 [15,996]
	3					
成果		<input type="checkbox"/> A 上がっている <input type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C 上がっていない				
上記指標の妥当性と 成果の内容説明	1	輸送人員数を見ることで事業の有効性が判断できる。R1年度までは年間6万人の利用があったが、新型コロナウイルスの影響によりR1年度の1月以降については利用者が減少傾向となり、緊急事態宣言の発出等によりR2年度については、大幅な減少となった。				
	2	1人当たりの運行費用を見ることで事業の効率性が判断できる。市民バス及び委託代替バスともに、R2年度は新型コロナウイルスの影響により、輸送人員の大幅な減少があり、事業効率性が低下している。委託代替バスについては、運賃収入の減少により委託料も増額している。				
	3					

事務事業総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input checked="" type="checkbox"/> C 期待以下の達成
----------	--

6 改善(ACTION): 今後の事務事業の展開

今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 拡大(コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善(事務的な改善を実施する) <input type="checkbox"/> 全部改善(内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要) <input type="checkbox"/> 縮小(規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する) <input type="checkbox"/> 廃止(廃止の検討が必要)					
事務事業の改善案	改善の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)					
	令和3年度の改善計画(今後の事業展開説明) 既に実施している新型コロナウイルス感染対策の継続【運転者のマスクの着用・体温測定・飛散シート設置・マスク着用ポスターの掲示・車内換気の窓開け、車内消毒の実施】を行い安心して利用できる環境の整備 新型コロナウイルスの影響によりバスの利用客離れがおきないように、令和2年10月より実施している民営バス利用助成制度の継続実施(1回100円で民営バスを利用できる券の発行及びゴールド定期券の購入助成)及び市民バスの高校生割引運賃の導入を実施する。					
過去の改善経過	改善の経過	適宜時刻表の見直しを実施。 平成21年 竜岡線の新規追加(社会福祉村線から独立)、穴山橋線を円野線に変更(終点を穴山橋から上円井上に延伸) 平成22年 穂坂線の延伸、学生の長期休暇時(春、夏、冬)における利用促進のための学生割引(1回全区間50円) 平成23年 高齢者・障がい者割引の導入(1回全区間100円、3ヶ月3,000円・年間12,000円のフリーバス) 平成26年 市民バスの買い替えを実施、低床バスの導入 平成29年 小中学生割引を実施(全区間1回100円 年間バス21,600円)。 平成30年 竜岡線の単独線化及び穂坂線の増便(H30.10.3ダイヤ改正) 令和2年 穂坂線の延伸(深田記念公園)、竜岡線の路線見直し(県営若尾団地経由に変更)				
	直近の評価結果	内部評価	令和元年度	<input type="checkbox"/> 拡大 — <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止		
		外部評価	令和元年度	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止		
改善案	各系統の利用状況を把握し、運行経路及び運行時刻の検討を行う。また、市内の実情を把握し、効率的な公共交通網の形成を研究する。					
課長所見	他公共交通機関や他事業との整合性を保ちつつ、市民ニーズや社会構造の変化に対応した効果的・効率的な事業実施に努めたい。					